

令和5年9月

定例教育委員会会議録

十日町市教育委員会

令和5年9月定例教育委員会会議録

1 開催日時、会場

令和5年9月26日（火） 14時40分～16時15分
十日町市役所 3階 全員協議会室

2 出席

渡辺正範教育長、浅田公子委員、廣田公男委員、渡邊奈々子委員、川崎正男委員

3 説明のため出席した者

教育文化部長（鈴木政広）、教育総務課長（玉村浩之）、学校教育課長（細木久成）、指導管理主事（藤田剛）、生涯学習課長（樋口具範）、文化財課長（菅沼巨）、スポーツ振興課長（庭野日出貴）

4 会議の内容

（1）会議録署名委員の指名

署名委員：渡邊委員、川崎委員

（2）報告事項

① 共催・後援等報告

渡辺教育長

- ・事務局の説明を求めた。

各担当課長

- ・資料に基づき説明

② 報告第1号 市立中学校のあり方検討委員会について

渡辺教育長

- ・事務局の説明を求めた。

玉村教育総務課長

- ・資料に基づき説明

川崎委員

- ・この生徒数の推計資料を見て、あり方検討委員会からはどんな意見が出たか。

玉村教育総務課長

- ・将来人口推計、生徒数推計については、ある委員の方は、思ったより減り幅が多いので、これだけ人数が減れば学校数を絞らないと厳しいのかなと言われた方もいらっしゃった。個人的な感想だが、非常に数が減るといふ具体的に示した数字だったので、言葉にならないというような感じを受けた。

廣田委員

- ・6月26日開催分の議事録概要の委員さんの意見の中で、「学校がなくなった地域に

メリットがあるということ視察先の先生がおっしゃっていたのは確かにそうだと感じた」というのがあるが、これはどういう意味か。

鈴木教育文化部長

- ・湯沢の三俣地区では子供が少なくなりましたが、三俣地区の祭りに湯沢学園の子供たちが来ていろんな活動をして地域が賑わったという記事が新聞に出ており、そういった事例を聞いて委員さんが感じたものだと思う。

(以上の質疑のあと了承した)

③ 報告第2号 令和5年度NRT（標準学力検査）及び全国学力・学習状況調査の結果について

細木学校教育課長

- ・資料に基づき説明

渡邊委員

- ・NRTの結果だが、いつもこれを見ると中学生にいくにつれて右肩下がりの図しか見たことがない。他県とか、他の市町村では上がっていくということもあるのか。

細木学校教育課

- ・グラフの数値は偏差値であり平均で50.0なので、下がる場所があれば上がる場所もあると思う。

渡邊委員

- ・そう考えると、小学校での学習に対する意識というか、学習することを楽しむという意識が醸成されないと、中学校はいつまでたってもこのようになるかと思った。

渡辺教育長

- ・先ほどの中学校ごとの生徒数を見てもらうと分かるが、市外の中学校に毎年50人ぐらいが行っている。市外の学校に行く子がどういう子かという、どちらかというクラスで成績が上の子が行っている。そういったことで、なかなか上がる要素になりづらいというところである。市外の学校に行っている生徒も入れてNRTの結果が出ればもう少しいいと思うが、そういうわけにはいかないところである。

廣田委員

- ・自分にはよいところがあると思いますかの問いで、「どちらかといえば当てはまらない」、「よいところがない」の回答が両方合わせてR5の小学校だと17%か、中学校だと18、19%ぐらいである。ということは、約1割5分か2割ぐらいの子供さんが自分にはよいところがないと思っているというのは非常に問題かなと思う。小さい頃はそこまで考えないと思うが、小学校の高学年ぐらいになって自分のいいところがないというのはいかなものかなと思う。それから、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますかということで、「そうでもない」と、「必ずしもいけないことだと思わない」という回答が2、3%あるわけだが、これも100%いじめはいけないと回答することというのに達成している学校も幾つかある中で平均がこれだということは、100%達していないところはもっと数字が高いということである。ゼロのところがあるにもかかわらず全

体の平均がこれだということは、実際は見かけよりももっと深刻な学校もあるということなので、正しい評価ができるように学校に話していただければと思う。

川崎委員

- NRTの結果では、アンダー・アチーバーの推移を取り入れ評価していこうという動きを取られ、そのやり方については今後も継続していただきたい。
中学校のNRTの結果は、令和2年度をピークにしてだんだん下がってきているという状況があって、その背景には何があるかということ、市外の学校への入学、特にそうした意欲的な子供たちが市外へ出ていることでこうした現象が考えられるのではないかという話が先ほどあった。もう一つとして、自分は教育相談センターで今働いており、各学校に定期的に行って話を聞くことがあるが、その中で最近言われているのが、特別支援学級在籍のお子さんが通常学級にだんだん戻るような動きが全国的にある。そうした中で、これまで小学校時代には特別支援学級で特別なカリキュラムでやっていた子供が中学校に入っていきなりみんなと一緒にすることで、戸惑いがかかり出てきているところがある。そういったものも今回このグラフの現象に影響が出て、これからさらに進んでいくのではと思っている。そうした状況にも何か手を打っていかないといけない。

細木学校教育課長

- 特別支援学級にいらっしゃったお子さんは、例えば6年生でも5年生、4年生の学習をしているお子さんもいらっしゃる。そういった子が中学校に行って普通の学級に戻ると、抜けてしまっている部分がある。それがギャップになって難しさを感じているというお子さんがいらっしゃるのは事実である。ただ、必ずそういったときには就学相談の中で、どのような就学が一番適正なのかということをしつくり学校と保護者と、そして教育委員会も入り合意形成をしながら進めていく。就学の相談でお互いしっかりと理解しながらその子の指導に当たり、しっかりと進めていきたい。

浅田委員

- 中学校で右肩下がりに低下していくのが心配で、特に高校受験で進路選択の幅を狭めてしまうのではないと思う。クラスの中にも分布があると思うので、特に下のほうにいらっしゃるお子さんに対して強力にてこ入れをしなければいけないと思った。

細木学校教育課長

- 中学校は教科での指導になるので、教科の中での指導力の向上という研修も進めている。そしてまた、子供たちが学習に対して意欲的に、そしてまた意欲的に学習ができる環境を居心地のよい学級づくりでつくっていき、子供たちが学習に向かう環境を整えていきたいと考えている。

(以上の質疑のあと了承した)

- ④ 報告第3号 令和4年度十日町市立学校における「不登校・いじめ」の状況について

細木学校教育課長

- ・資料に基づき説明

廣田委員

- ・いじめの内容も毎年変化してくると思うが、そうすると当然調査方法も変わったり、いじめの定義やボーダーラインも変わってくると思う。そうすると、総数も上がったり下がったりするので、もし調査方法が変わったような年があれば、これについては変わったとかということも併せて説明していただくと、増減が分かると思う。

細木学校教育課長

- ・今年は調査方法等の変更はなかった。

川崎委員

- ・報告であるが、先日、全国の市町村教育委員連絡協議会の研修会に、オンラインで参加させていただいた。分科会ということで不登校、いじめの分科会に出席させてもらったが、その中で当市のいじめ対応の取組で、資料にあるウェブQUを活用した居心地のよい学級づくりについて質問があったり、あと新潟県のSNS教育プログラムというのは初めて聞いたがどんなものなのかという質問を受けて、お答えさせていただいた。いじめ対応の取組については非常に注目していただいていることである。ぜひこの資料にある取組を一つ一つしっかり着実にやっていくことが何より大事と思うので、ぜひまた推進をよろしく願いしたい。

(以上の質疑のあと了承した)

⑤ 報告第4号 十日町市学校給食地産地消推進委員の委嘱について

細木学校教育課長

- ・資料に基づき説明

渡邊委員

- ・年に何回、どんな会議が行われるか教えてほしい。

細木学校教育課長

- ・基本的には年に1回、地産地消を推進するためにどういう取組ができるかとか、そういったところを関係者で連絡調整している会議である。

5 その他

(1) 10月の主な行事予定について

- ・資料に基づき説明

(2) 次回定例教育委員会の開催日時

- ・10月定例会 10月23日(月) 15時00分から開催することを決定した。

以上で、16時15分に渡邊教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会 議 書 記